明治六年第一月

新貨三錢

郵便

# 知新聞

第世號

驛逓寮檢

東京横山町三丁目
太田金右衛門

特
門 イ8
號 407
巻 12

凡例

遠近の人民互に性情よく相通じ事理よく古今に達する新聞紙の如き命脈故に西洋諸國苟も文明の名あるの地にして此を新聞紙局に設ありて國内國外を論ぜず九百の多務を綱羅 係て奇事異聞増話常談を采用して日々刊行し傳布き居ゆく幾人と家々喻々戸々に説くに概あれば國人甚だ之を使ゝ之を今爰に郵便新報を刊行するも奏く遠近の事情を通じ善古今の変を知り以て世を得益あらんことを欲するなり遠水の永久見て天下の寒を知るべしれば此冊を見るとき市井今日の情況を窺ふべし



○元始祭式

孝明天皇遥拝式

神武天皇御即位日遥拝式

右別冊之通被 仰出候条毎歳執行可致事

但明年ハ式書各地到着ノ日、本文日限ニ後レサルハ、

更ニ日ヲ撰ミ可執行事

別冊

官幣、國幣社并府縣社

○元始祭式

一月三日宮中神殿ニ於テ賢所并八神、天神地祇御歴代皇靈ヲ御親祭在セラル是天日嗣ノ本始ヲ歳首ニ祀リ給フ義ナルヲ以テ之ヲ元始祭ト稱ス地方ニ於テモ此ノ大典ヲ遵奉シ官社以下祭祀ヲ修シ官員及ビ人民悉ク參拜スベシ

早旦神官神殿ヲ裝飾ス　午前第八時神官ノ長（府縣社祠官）

（下同）幄舍ニ着ク　次神官ノ長、殿ニ昇リ御扉ヲ開ク

此間奏樂（神官奏樂ヲ心得ザレバ妨ナシ下同シ）　次神官ノ次官以下（府縣社ハ祠官）神饌ヲ傳供ス（下モ同ジ）



此間奏樂　次神官ノ長祝詞ヲ奏ス　再拜

掛巻母恐支

某神社乃大前爾宮司位苗名恐美恐白左今年一月乃今日乃年始乃祭爾

天皇乃大朝廷爾志諸乃皇神等手齋支祭良世給布是以大前手慎敬比御食御酒贄乃廣物贄乃狹物奥津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜爾至留麻爾置足波志奉留事手平良氣久聞食豆大御代手常磐爾堅磐爾守幸波倍給比敷坐世留國内乎平良氣久治給比仕奉留人等公民爾至留麻爾洩留事無久守利幸波倍給比立榮志米給倍止白須事手聞食世止恐

美恐美母白須

次神官ノ長、玉串ヲ執テ拜礼　次、次官府縣社ハ祠掌以下拜礼、

次、次官以下神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次各退出

○神饌官幣國幣社九臺府縣社八臺

魚府縣社ハ之ヲ略ス海菜　野菜　菓水塩　洗米　酒二瓶　餅　海魚　川

郷村社

○元始祭式

早旦祠官神殿ヲ装飾ス　午前巳ハ時祠官村社ハ祠掌奉仕ス以



下幄舍ニ着ク　次祠官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク　次祠官

以下神饌ヲ傳供ス　次祠官祝詞ヲ奏ス再拜

掛巻母恐支

某神社乃大前爾祠官村社ハ祠掌苗名恐義恐美母白久今年

乃一月乃今日乃年始乃祭爾大前手慎敬比御食御酒

魚手始豆種々乃物手備奉留事手平良氣安良氣聞食

豆仕奉留人等公民爾至留麻波留豆爾洩留事無久守幸倍給比

立栄志米給倍止白須事手聞食世比恐美恐美母白須

次祠官玉串ヲ執テ拜礼再拜拍手　次祠掌拜礼　次祠官以

下神饌ヲ撤ス　次祠官御扉ヲ閉ツ訖テ下殿シ幄舍ニ

復ス　次各退出

神饌六臺　洗米　酒　餅一重　海魚川魚ヲ用ユルモ可ナリ

野菜　塩水

○孝明天皇御陵遥拜式

孝明天皇御例祭新暦一月二十三日相當ニ付上下一般遥拜スヘシ

府縣廳中清浄ノ地ヲ擇ミ山城ノ方ニ向ヒ新薦ヲ敷キ高机一脚ヲ置キ机上御玉串ヲ安ズベシ玉串ハ榊ノ小枝ニ白紙ノ四面ヲ付

拜辞　掛巻　冊恐支





孝明天皇乃大前手遥爾拜美奉良久白須

官員礼服着用シテ拜礼畢テ御玉串ヲ焼却スベシ

地方ハ郷村氏神々職ヘ遥拜式申渡シ氏子ノ者ヲシテ

山城ノ方ニ向ヒ遥拜セシムベシ

○神武天皇御陵遥拜式

神武天皇御即位紀元ノ日新暦一月二十九日相當ニ付

毎歳御祭典御遥拜在セラル依テ御趣意ヲ遵奉シ上下

一同遥拜スベシ

敷設等孝明天皇ノ例ニ準ス

拜辞　掛巻　冊恐支

神武天皇乃大前手遥爾拜美奉良久白須止

右之通御布令アリ

○柏崎縣より報知

管下頸城郡柿寺駅住瀧沢彦三郎と云者字飛山と云る同人所持の畑へ麥作ふ出しふ畑中より古銅銭共計目方六貫餘を堀出せり依て縣廳より其處置を大藏省へ伺中ふりと

○宮城縣より報知

管下亀ヶ岡山より名取郡長袋駅へ出るの山道嶮岨狹隘なりて牛馬の往來成り難き場所ありしが縣下の商





中井新太郎等同志の者十四名申合せ此街道を修理せば牛馬の往來荷物運送の便ぶ〳〵るゝぶ羽州への里程其半を減ト大利益るれバ拍續を以開拓いたし度段願濟相成已ふ十月下旬出來せり

○英國龍動新聞

英國朝廷ハ向ケ出発セシ日本大使一行ヲ乗セ「キウナルド、スチーメルヲリンプス」船去ル土曜日ニ「ウヨルク」ヨリ「メルセイ」河ニ到着セリ朝第十一字ニ英政府ニリ彼ノ河口邊ニテ右「ヲリンプス」船ヲ迎ンガ為メ二艘ノ小汽船ヲ出セシニ第一字半ニ彼ノ「ヲリンプス」船ニ

出會ヒシカバ「ストルムキング」船ハ直チニ「ヲリンプス」船ノ側ニ乗寄セ特派全権大使岩倉其他大蔵、外務、工部、戸籍、医院ノ夥伴ヲ其船ニ迎ヘ取リタリ又此大使ニ陪従セル外科医ハ「トクトロベルトジチスロヲン」ト稱シ愛倫「ロストレウエル」府ノ産ニシテ大使并其他陪従ノ者都合三十人ヲ「ストルムキング」船ニ迎ヘ入レ「リウエルフウル」府ヲ指シテ進ミシニ大凡四時頃ニ太子登岸場ニ到着セリ此所ニテ既ニ知府事ノ車（此馬車ハ於別ト云ヒ自用ノ四輪車ハ大使等ヲ迎ンガ為メニ待受タリシカバ大使等ハ之ニ乗リテ速ニ北西旅館ニ到リ其所ニテ知府事ニ面會シ「ランチヲン」（朝餐午餐同饗應ヲ受ケ夫ヨリ倫敦府ヲ指テ五時ノ連車ニテ出立セリ政府ヨリ名代トシテ遣シタル「リウテナンドセーチヲル」官ノ「アレキサンドル」氏ハ「ストルムキング」船ニ乗行「ヲリンプス」船ヲ迎接シ賓客ヲ倫敦府ヘ同伴セリ一週ノ内ニハ大使ハ「リウエルブール」ニ赴キ貿易事務局ノ饗應ヲ受ルナラン



○群馬縣管下新聞責弘所治田文次郎より報知

管下第十二大區下高尾村農本多國太郎妻某去申十一月十五日午後二字頃三男子を出生せり近邊見物人夥

敷ゐ其甲斐無しを同十八日曉三孩とも死去せりと

○府下浅草吉野町割庖店八百屋善四郎配膳濫觴の説を博覧會事務局へ建言の大意

抑饗膳の事ゑ大山祇大神天孫尊大神を饗し給ふゐ山野河海の珍味を以し之を盛るゐ七机を用ひらる七机とは飯餅生肉熟肉菜菓是ゑりを我國配膳の濫觴にして後世源氏ゑれ語枕の双紙ゑどゐも饗膳の事ゐり茶の湯會席ゑど称ゑる事ゑ東山義政公をはじめ秀吉公も繼寄ゐ御名ありを相阿弥利休抔を用ひらを五本立七本立あり五本立とゑ五盤七本立とゑ七盤あり聚



樂行幸ゐは九本立ゐりと言傳ゑ又し五三と唱へを三とゑ三献ゐり五とハ五献ゐり則初献烹雑皿ゐ盛る添肴あり、二献あんちゑ添肴ゐり、三献羹、四献ゆらむき令麥ゐる麥鄙ゐよる、五献羊羹類、添肴あり

○郵便馬車會社河津棧威今般下総國境より磐城國福島夫より羽前國米沢迄物品運輸便利の為め馬車開行の儀出願せしゐ十月中許可相成り右ゑ付道路修繕行程取調としを社中國分其外数名此程出發せり

○諸兵隊誓古始之義是迄正月八日ニ小処向後第一月四日ニ改定但陸軍始メ之儀ハ從前之通小吉山縣陸

軍大輔殿ヨリ御達アリ

○神奈川住の岸田氏の來翰中ニ横濱ニ在留の英國人ロヘルトソンウルキー氏ハ是迄所持の日本号蒸氣船ヲ以テ東京迄往復せし所の着場を相止め更ニ浅草邊ヘ往復の場所を開き度趣去中十一月廿四日日本政府ヘ彼の國ノ領事官願出ル由右願ハ彼我人民の大利益ニ相成事ゐ是ば速ニ御許可あり度ものなり

○去申九月中臺灣国ニ於て琉球人を切害せし一件ニ付本月廿七日発艦副嶌外務卿を尋問として被遣ゐり

報知新聞第卅一號終

今般郵便報知新聞刊行の貴趣ハ遠く隔る國々迄も達せしめ且有ゆふ迄ゐる細矣ゐる事各地ニ於ゐ人々ハ奮発暴徒ハ捕縛機械屋敷の新発明蠶絲織紡漆器陶器米穀果菜其他の諸品製造耕作の多寡豊凶震雷風雨水火の災難寒暖季候の違ひすべて少しも洩れなきを尽して筆記して新文雅趣飾を加へ毎日紙載て是を売発兌人又ハ賣弘所ニ送り越し給ふ人々の幾希ニ

一郵便報知新聞一冊價形貨三錢毎月五号郵出板

當時發兌号より先キ日冊分引受候ハ一割引

同四日冊分ハ一割半引

一ヶ年分引請ハ二割引

若し通割金お定前金郵便賃共ハ遠近ニ寄て差違可有之

發兌く　東京横山町三丁目　太田金右衛門